



## TMS と Google カレンダーの統合の展開

- [TelePresence Management Suite 統合の概要 \(1 ページ\)](#)
- [TMS を使用したスケジューリングフロー \(3 ページ\)](#)
- [TMS 統合の要件 \(5 ページ\)](#)
- [TMS 統合の展開タスクフロー \(6 ページ\)](#)
- [TMS 統合の前提条件への対応 \(7 ページ\)](#)
- [@meet キーワードアクションの設定 \(7 ページ\)](#)
- [TMS での Google ルームメールボックスの設定 \(8 ページ\)](#)
- [Webex クラウドへの Expressway-C コネクタホストの登録 \(9 ページ\)](#)
- [Cisco TMS へのカレンダーコネクタのリンク \(11 ページ\)](#)
- [TMS への会議サーバーの追加 \(12 ページ\)](#)
- [Google カレンダーと TMS の統合のテスト \(13 ページ\)](#)
- [TMS と Google カレンダーの統合の注意すべき動作 \(15 ページ\)](#)
- [TMS 統合のトラブルシューティング \(15 ページ\)](#)
- [カレンダーコネクタログの有効化と収集 \(17 ページ\)](#)

## TelePresence Management Suite 統合の概要

TelePresence Management Suite (TMS) のスケジューリングオプションを使用すると、ハイブリッドカレンダーは、オンプレミスリソース管理および会議ホスティング環境を利用して、会議のスケジュールを簡素化することができます。また、この統合によって、会議参加ボタンがさまざまなビデオデバイスに拡張されます。

この統合は、現在、Office 365 用のクラウドベースのハイブリッドカレンダーまたは Google カレンダー用のクラウドベースのハイブリッドカレンダーと連動します。統合を展開するには、まず、クラウドベースのサービスをセットアップします。次に、カレンダーコネクタをオンプレミス Expressway-C にインストールして、TMS のスケジューリングオプション用にコネクタを設定します。



- (注) Webex 組織にすでにハイブリッドカレンダー用に設定されたカレンダーコネクタがある場合は、TMS スケジューリングオプションを展開できません。TMS 統合は、組織内の唯一のカレンダーコネクタである必要があります。

会議のスケジュールを簡単にするために、ユーザはカレンダー招待の[ロケーション (location) ] フィールドに **@meet** を入力できます。Control Hub で、ハイブリッドカレンダー が **@meet** キーワードに対して実行するアクションを設定できます。

Control Hub の @meet に対して選択するオプション	@meet に応答してコネクタがスケジュールする方法	TMS 統合を使用してコネクタが参加ボタンを処理する方法
<b>TelePresence Management Suite</b> (注) TMS 統合を展開する場合に、このオプションを選択します。	TMS を使用して会議をスケジュールし、オンプレミス会議ブリッジリソースでホストされた会議に関する参加の詳細を追加します。  このオプションは、一意の会議固有の会議 ID を提供します。	会議が開始される直前に、TMS がオンプレミスで登録された招待ビデオデバイスに参加ボタンを提供します。  (注) オンプレミスエンドポイントの参加ボタンは、現在、オンプレミス会議ブリッジリソースでスケジュールされた会議でのみ機能します。この統合では、Webex パーソナルルームミーティングのオンプレミスエンドポイントに参加ボタンを提供していません。  参加ボタンは、Webex Teams とクラウド登録 Webex ルームデバイスおよびデスクデバイスでも使用できます。

Control Hub の @meet に対して 選択するオプション	@meet に応答してコネクタが スケジュールする方法	TMS 統合を使用してコネクタ が参加ボタンを処理する方法
<b>Webex アプリスペース（または @meet:space）</b>  (注) この設定は、デフォルトです。他のオプションを選択した場合は、ユーザが <b>@meet:space</b> を入力して、このアクションをオーバーライドできます。	Webex アプリでスペースを作成し、その参加の詳細を追加します。  TMS は不要であり、使用されません。	参加ボタンは、Webex Teams とクラウド登録 Webex ルームデバイスおよびデスクデバイスで使用できます。
<b>パーソナルルーム（または @meet:myroom）</b>  (注) 他のオプションを選択した場合は、ユーザが <b>@meet:myroom</b> を入力して、このアクションをオーバーライドできます。	主催者のパーソナルルーム参加の詳細を使用して会議をスケジュールします。  TMS は不要であり、使用されません。	参加ボタンは、Webex アプリとクラウド登録 Webex ルームデバイスおよびデスクデバイスで使用できます。

Google カレンダーでビデオデバイスをルームメールボックスとともに設定する場合、ユーザはデバイスを会議に招待できます。Cisco TMS では、デバイスが緑色の [参加 (Join)] ボタンを必ず受信します。OBTP は、次のタイプのデバイスに送信されます。

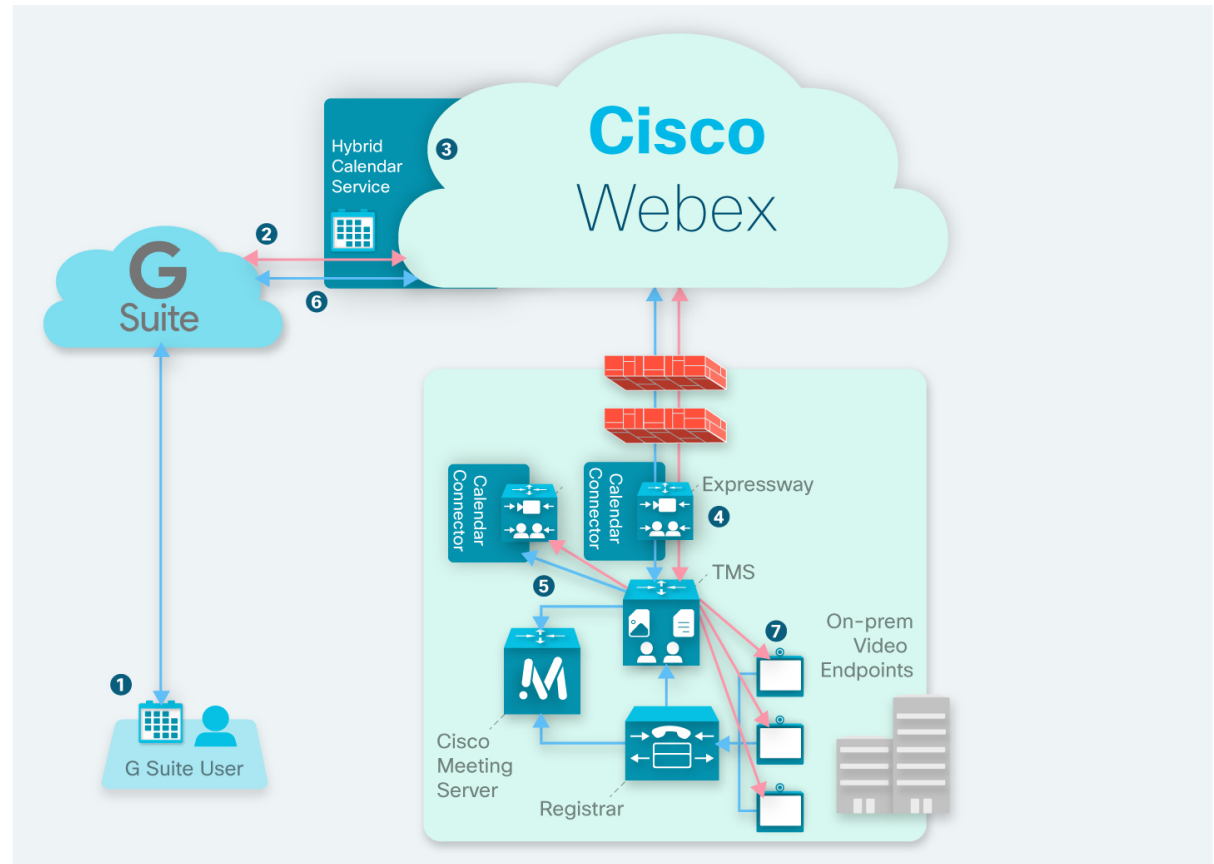
- オンプレミス Unified Communications Manager に登録されたビデオデバイス。
- オンプレミス VCS または Expressway に登録されたビデオデバイス。
- Control Hub 内の場所として設定された、クラウド登録 Webex ルームデバイスおよびデスクデバイス。

## TMS を使用したスケジューリングフロー

次の図は、ハイブリッドカレンダー が TMS およびカレンダーシステムと相互作用して、オンプレミス会議ブリッジリソースによってホストされた会議に [参加 (Join)] ボタンを提供する方法を示しています。

このスケジューリングフローでは、管理者が**TMS 統合の展開タスクフロー**の手順に従って統合をセットアップしたことを前提とします。この手順には、Google カレンダーでの**TelePresence Management Suite** アクション用の **@meet** の設定とデバイス用のルームメールボックスアドレスのセットアップに加えて、それらのアドレスの TMS への追加が含まれます。

図 1: Google カレンダーを使用したハイブリッドカレンダー スケジューリングフロー



1. 主催者が Google カレンダーで会議を作成してから、[ロケーション (Location)] フィールドに **@meet** を追加します。主催者が Google カレンダーディレクトリからユーザとビデオデバイスを招待します。
2. Google カレンダーが ハイブリッドカレンダー に通知を送信します。
3. ハイブリッドカレンダー が暗号キーを要求して受信してから、それを使用して会議情報を暗号化します。
4. ハイブリッドカレンダー が会議の作成と受信者を検証し、カレンダーコネクタが TMS に詳細を送信します。
5. TMS がオンプレミス会議ブリッジで会議を作成し、その参加の詳細をカレンダーコネクタに送り返します。
6. コネクタは、TMS から提供された参加の詳細を使用して会議の招待を更新し、招待者が Google カレンダーで会議を表示したときに、更新された参加の詳細が表示されます。

7. 会議時間の直前に、会議に招待されたビデオデバイスが TMS から OBTP 情報を受信します。

## TMS 統合の要件

この統合には、次のコンポーネントが必要です。

- 展開され、設定された Google カレンダーを使用したクラウドベースのハイブリッドカレンダー
- インストールされ、次の設定が施されて実行中の、TelePresence Management Suite (TMS) 15.9 以降
  - 有効な CA 署名付きサーバ証明書がインストールされている必要があります。この統合では、自己署名証明書はサポートされていません。
  - 予約する各エンドポイントはすでに TMS に追加されていて、一般的な TMS の使用ライセンスを供与されている必要があります。
  - TMS には、TMSXE を使用してエンドポイントを予約するために必要なものと同じ次のいずれかのオプションキーが指定されている必要があります。
    - 小規模導入：TMS に統合されている 25 のテレプレゼンスエンドポイントごとに、TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange (TMSXE) のオプションキー（部品番号 L-TMS-MSEX-25）。
    - 大規模な導入：1 つの Application Integration Package のオプションキー（部品番号 L-TMS-APPINT）

両方のタイプのオプションキーが存在する場合、TMS はアプリケーション統合パッケージキーのみを使用します。

TMSXE またはアプリケーション統合パッケージのオプションキーがすでに存在する場合は、次の手順を実行します。

- 現在、オプションキーを使用していない場合は、ハイブリッドカレンダー統合で使用できます。
- TMSXE でオプションキーを使用している場合は、パートナーまたはセールスチームに連絡して、ハイブリッドカレンダー統合用の 2 つ目のオプションキー（またはキーのセット）を要求してください。短期間で TMSXE から移行する予定の場合は、ハイブリッドカレンダーへの移行が完了したら、90 日間のトライアルを要求して、元のオプションキーを再利用することができます。
- オンプレミス会議ブリッジリソース（Meeting Server を推奨）を設定する必要があります。
- TMS のユーザのタイムゾーンは、カレンダーシステム内のタイムゾーンと一致する必要があります。TMS でのタイムゾーンの設定手順については、該当する『Cisco

『TelePresence Management Suite Administrator Guide』の「User Administration」を参照してください。

- インストールされ実行中の Expressway ノード（TMS とハイブリッドカレンダー間のコネクタホストとして機能するため）
  - 無料で [software.cisco.com](https://software.cisco.com) からダウンロードできます。
  - コネクタホストに使用するには、Expressway の最新リリースをお勧めします。Expressway のバージョンサポートについては、「[Expressway コネクタホストにおける Cisco Webex ハイブリッドサービスのサポート](#)」を参照してください。
  - 現時点で、この統合をホストする専用の単一の Expressway ノードのみがサポートされています。ノードは、他のハイブリッドサービスコネクタを実行してはなりません。また、このノードは Webex アプリ組織内の唯一のカレンダーコネクタホストである必要があります。
  - この統合のスケジューリングユーザは最大 10,000 人にするをお勧めします。

## TMS 統合の展開タスクフロー

Google カレンダー展開でハイブリッドカレンダーに TMS 統合を追加するには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">TMS 統合の前提条件への対応</a> （7 ページ）	
ステップ 2	<a href="#">@meet キーワードアクションの設定</a> （7 ページ）	ユーザーが TMS 統合を使用してスケジュールできるようにします。
ステップ 3	<a href="#">TMS での Google ルームメールボックスの設定</a> （8 ページ）	TMS 内のビデオデバイスシステムを Google カレンダー内のルームメールボックス電子メールアドレスにマップします。これにより、ユーザがデバイスを会議に招待し、TMS を使用して OBTP を調整した時点ハイブリッドカレンダーが認識できるようになります。
ステップ 4	<a href="#">Webex クラウドへの Expressway-C コネクタホストの登録</a> （9 ページ）	Expressway を Webex クラウドに接続します。これにより、 <a href="https://admin.webex.com">https://admin.webex.com</a> でリソースが作成され、コネクタソフトウェアが Expressway にダウンロードされます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<a href="#">Cisco TMS へのカレンダーコネクタのリンク</a> (11 ページ)	必要に応じて、カレンダーコネクタが TMS と通信するために必要な詳細情報を設定し、オンプレミス会議ブリッジテレフォニーの詳細を招待に追加します。
ステップ 6	<a href="#">TMS への会議サーバーの追加</a> (12 ページ)	オンプレミスで @meet 会議をスケジュールするために統合を有効にします。
ステップ 7	<a href="#">Google カレンダーと TMS の統合のテスト</a> (13 ページ)	TMS との統合を確認します。

## TMS 統合の前提条件への対応

### 手順

**ステップ 1** Google カレンダーでハイブリッドカレンダーをまだセットアップしていない場合は、次の章を使用して行います。

1. [環境の準備](#)
2. [Google カレンダーを使用したクラウドベースのハイブリッドカレンダーの展開](#)

**ステップ 2** すべての [TMS 統合の要件](#) (5 ページ) が満たされていることを確認します。

**ステップ 3** TMS 統合のカレンダーコネクタホストとして機能する Expressway に次のポートアクセスを提供します。

- Expressway から \*.rackcdn.com、\*.ciscopark.com、\*.wbx2.com、\*.webex.com、\*.webexcontent.com、および \*.clouddrive.com に発信される、HTTPS またはセキュア Web ソケットのポートアクセス：TCP ポート 443 (セキュア)
- Expressway から TMS に発信される HTTPS 用のポートアクセス：TCP ポート 443 (セキュア)

## @meet キーワードアクションの設定

TMS 統合機能をユーザーに提供するには、組織管理者アカウントを使用して Control Hub で @meet を設定します。

## 手順

---

- ステップ1 <https://admin.webex.com/login> の顧客ビューにサインインします。
  - ステップ2 左側のナビゲーションウィンドウで、[サービス (Services)] の下の [ハイブリッド (Hybrid)] をクリックします。
  - ステップ3 Exchange 用のハイブリッドカレンダーカードで、[設定の編集 (Edit settings)] をクリックします。
  - ステップ4 [キーワード (Keywords)] セクションで、[@meet] に対して [Cisco TelePresence Management Suite] を選択します。
  - ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。
- 

# TMS での Google ルームメールボックスの設定

次の手順を使用して、TMS でビデオデバイスの Google カレンダールームメールボックスアドレスを一度に1つずつ追加します。または、一括アップロードを使用して複数のアドレスを設定することもできます。手順については、該当する『[Cisco TelePresence Management Suite Administrator Guide](#)』の「Bulk Room Email Mapping for Endpoints」を参照してください。

## 始める前に

- ユーザーが会議に追加する各ビデオシステムには、TMS が OBTP を提供するための Google 内のルームメールボックスが必要です。ルームメールボックスの作成に役立つ情報については、「[カレンダーリソースの管理](#)」を参照してください。
- Control Hub の [自分の組織でカレンダーリソース (会議デバイスなど) を使用する (My organization uses calendar resources (such as conference devices))] チェックボックスがオンになっており、認可されたアクセスコントロールリスト管理者アカウントの名前が入力されていることを確認してください。 (<https://admin.webex.com> から、[サービス (Services)] に移動して、ハイブリッドカレンダーカードを探し、Google の [設定 (Settings)] に移動します)。
- 管理者権限を持っている組織ドメインアカウントのログイン情報を TMS に収集します。

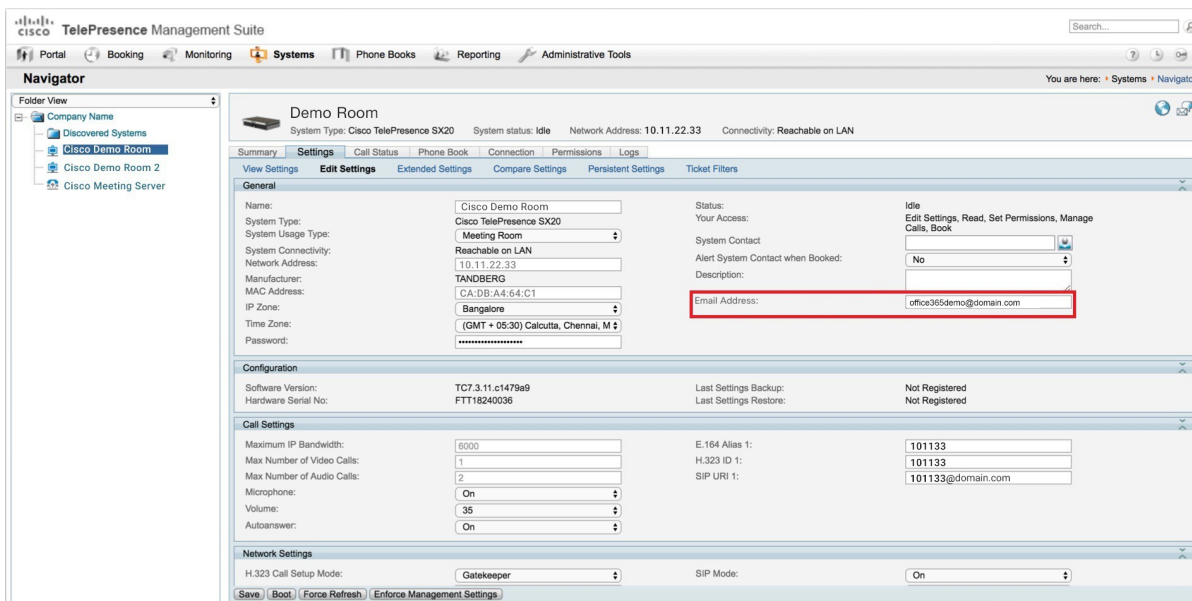
## 手順

---

- ステップ1 まだルームメールボックスを作成していない場合は、Google 管理コンソールで作成します。
- ステップ2 Web ブラウザから TMS にサインインします。
- ステップ3 [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] に移動します。
- ステップ4 ルームメールボックスアドレスを使用して設定するビデオシステムを探してクリックします。



ステップ5 [要約 (Summary) ]タブで、[設定の編集 (Edit Settings) ]をクリックし、[電子メールアドレス (Email address) ]フィールドにルームメールボックス アドレスを入力します。



ステップ6 [保存 (Save) ]をクリックします。

ステップ7 ビデオデバイスごとに、ステップ4～6を繰り返します。

## Webex クラウドへの Expressway-C コネクタホストの登録

次の手順を使用して、単一の Expressway-C ノードをクラウドに登録し、Expressway-C にコネクタソフトウェアをダウンロードします（現時点で、この統合では単一の Expressway ノードのみをサポートしています）。

TMS 統合は Microsoft Exchange セットアッププロセスにハイブリッドカレンダーを使用しますが、最終的に、カレンダーコネクタを TMS にリンクします。TMS にリンクしたら、Webex アプリ組織のコネクタを Microsoft Exchange にリンクしないでください。

### 始める前に

- Expressway-C がハイブリッドサービスにサポートされているバージョンで実行されていることを確認します。クラウドへの新規または既存の登録でサポートされているバージョンについては、ドキュメント「Supported Versions of Expressway for Cisco Webex Hybrid Services Connectors」 (<https://help.webex.com/article/ruyceab>) を参照してください。
- 他のブラウザタブで開いている、Expressway-C インターフェイスとのすべての接続からサインアウトします。
- オンプレミス環境で発信トラフィックを代替処理している場合、最初に [アプリケーション (Applications) ] > ハイブリッド サービス > [コネクタプロキシ (Connector Proxy) ]

にプロキシサーバの詳細情報を入力してから、この手順を行う必要があります。これは、登録を正常に完了するために必要です。

## 手順

**ステップ 1** <https://admin.webex.com/login> の顧客ビューにサインインします。

**ステップ 2** 左側のナビゲーションウィンドウで、[サービス (Services)] の下の [ハイブリッド (Hybrid)] をクリックします。

Expressway Web インターフェイスからの登録時に、Webex クラウドはすべての試行を拒否します。まず、Control Hub を使用して Expressway を登録する必要があります。これは Control Hub がオンプレミスとクラウド間の信頼関係を確立して登録を完了するために、Expressway にトークンを渡す必要があるためです。

**ステップ 3** Microsoft Exchange カードのハイブリッドカレンダー サービスで [セットアップ (Set up)] をクリックしてから、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) 組織に登録された Microsoft Exchange または Office 365 用の Expressway コネクタホストがすでに存在する場合は、この統合をセットアップしないでください。

**ステップ 4** [新しい Expressway をその完全修飾ドメイン名で登録 (FQDN) (Register a new Expressway with its Fully Qualified Domain Name (FQDN))] を選択し、Expressway-C の IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。これにより、Webex はその Expressway-C のレコードを作成し、信頼を確立します。次に、[次へ (Next)] をクリックします。Control Hub のリソースを識別するための表示名を入力することもできます。

**注意** クラウドに正常に登録するには、Expressway-C に設定するホスト名には小文字のみを使用します。大文字で始まるホスト名は、現時点ではサポートされていません。

**ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。新規登録の場合はリンクをクリックして Expressway-C を開きます。サインインすると [コネクタの管理 (Connector Management)] ウィンドウがロードされます。

**ステップ 6** Expressway-C 信頼リストの更新方法を決定します。

[ウェルカム (welcome)] ページのチェックボックスによって、必要な CA 証明書を Expressway-C 信頼リストに手動で追加するのか、それらの証明書を Webex に追加させるのかが決定されます。

次のいずれかのオプションを選択します。

- Webex によって必要な CA 証明書を Expressway-C 信頼リストに追加する場合は、このボックスをオンにします。

登録すると、Webex クラウド証明書に署名した機関のルート証明書が自動的に Expressway-C にインストールされます。これは、Expressway-C が自動的に証明書を信頼し、セキュアな接続をセットアップできる必要があることを意味します。

(注) または、[コネクタ管理 (Connector Management)] ウィンドウを使用して、Webex クラウド CA ルート証明書を削除し、手動でルート証明書をインストールすることができます。

- Expressway-C 信頼リストを手動で更新する場合は、このボックスをオフにします。手順については、Expressway-C オンラインヘルプを参照してください。

**注意** この時点で信頼リストに適切な CA 証明書がない場合は、登録すると証明書信頼エラーが表示されます。[ハイブリッドサービスの認証局](#)を参照してください。

**ステップ 7** [登録 (Register)] をクリックします。Control Hub にリダイレクトされたら、画面上のテキストを読んで、Webex が正しい Expressway-C を識別したことを確認します。

**ステップ 8** 情報を確認したら、[許可 (Allow)] をクリックして、Expressway-C をハイブリッドサービスに登録します。

- 登録には、Expressway の設定とそれが最初の登録かどうかに応じて、最大 5 分かかります。
- Expressway-C が正常に登録されると、Expressway-C 上のハイブリッドサービス ウィンドウに、コネクタのダウンロードとインストールが表示されます。使用可能な新しいバージョンがある場合は、管理コネクタが自動的にアップグレードしてから、Expressway-C コネクタホスト用に選択された他のコネクタをインストールします。
- 各コネクタは、ユーザがコネクタを設定してアクティブにする必要があるインターフェイス ページをインストールします。

このプロセスには数分かかる可能性があります。コネクタがインストールされると、Expressway-C コネクタホスト上の [アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス](#) メニューに新しいメニュー項目が表示されます。

#### トラブルシューティングのヒント

登録に失敗して、オンプレミス環境が発信トラフィックを代替処理する場合は、この手順の「はじめる前に」セクションを参照してください。登録プロセスがタイムアウトまたは失敗した場合（証明書エラーを修正する必要がある場合やプロキシの詳細を入力する必要がある場合など）は、Control Hub で登録を再開できます。

## Cisco TMS へのカレンダーコネクタのリンク

### 始める前に

有効な CA 署名付きサーバー証明書が TMS にインストールされている必要があります。この統合では、自己署名証明書はサポートされていません。

## 手順

- 
- ステップ 1** Expressway-Cコネクタホストで、[アプリケーション (Applications)] > ハイブリッド サービス > [カレンダーサービス (Calendar Service)] > [Cisco会議サービスの設定 (Cisco Conferencing Services Configuration)] に移動してから、[新規 (New)] をクリックします。
- ステップ 2** [会議サービスタイプ (Conferencing Services Type)] で、[タイプ (Type)] として [TMS] を選択します。
- ステップ 3** カレンダー コネクタ で TMS への接続に使用する TMS 管理者アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
- (注) [ユーザ名 (username)] フィールドに、ドメインを含まないユーザ名のみを入力します。
- ステップ 4** [TMSサーバの詳細 (TMS Server Details)] で、それぞれのフィールドに完全修飾ドメイン名 (FQDN) とドメインを入力します。
- (注) [TMSドメイン名 (TMS Domain Name)] フィールドに、NETBIOS ドメイン名を入力します。
- ステップ 5** [テレフォニー招待の詳細 (Telephony Invite Details)] で、[有料電話番号識別子、有料電話番号、フリーダイヤル識別子、フリーダイヤル番号 (Toll Identifier, Toll Number, Toll Free Identifier, Toll Free Number)] と [国際コールイン番号 (URL) (Global Call-in Numbers (URL))] に、該当する情報を入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。  
[TMS] が [Cisco 会議サービスの設定 (Cisco Conferencing Services Configuration)] の下に表示されます。
- ステップ 7** [TMS] をクリックして、[テスト接続 (Test Connection)] をクリックします。  
カレンダー コネクタ が Cisco TMS 環境への接続をテストします。テストでエラーメッセージが返された場合は、設定内のエラーを修正して、テストをやり直してください。
- ステップ 8** 接続を確認したら、[アプリケーション (Applications)] > ハイブリッド サービス > [コネクタ管理 (Connector Management)] に移動して、[カレンダーコネクタサービス (Calendar Connector Service)] をクリックします。
- ステップ 9** [アクティブ (Active)] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] を選択して、[保存 (Save)] をクリックします。  
カレンダーコネクタが開始して、ステータスが [実行中 (Running)] に変わります。
- 

## TMS への会議サーバーの追加

[TelePresence Management Suite] アクションを使用するように @meet を設定すると、TMS が [管理ツール (Administrative Tools)] > [設定 (Configuration)] > [会議設定 (Conference Settings)] > [詳細 (Advanced)] で設定されたブリッジを使用します。

## 手順

---

ユーザーが TMS とハイブリッドカレンダーの統合を使用して会議サーバーで会議をスケジュールできるようにするには、該当する『[Cisco TelePresence Management Suite Administration Guide](#)』の会議サーバーセクションの手順を使用してサーバーを追加します。

---

# Google カレンダーと TMS の統合のテスト

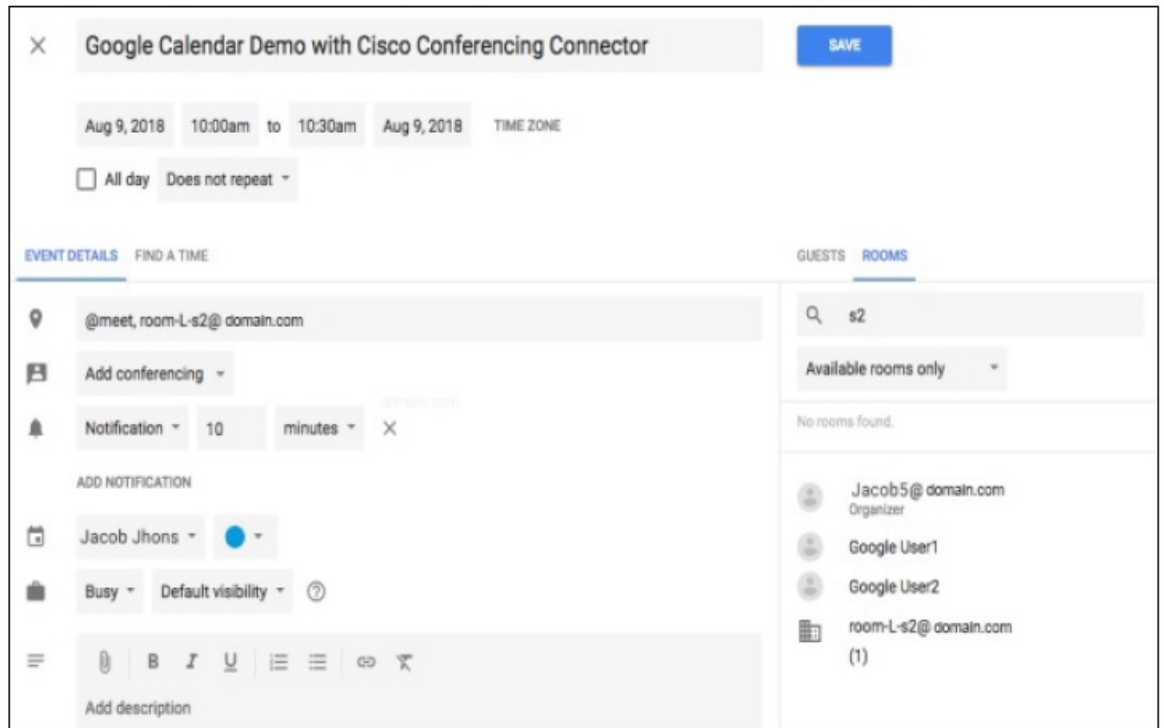
次の手順を使用して、テスト会議をスケジュールし、TMS 統合を検証します。

## 手順

**ステップ 1** @meet を使用して会議スケジュールリングをテストします。

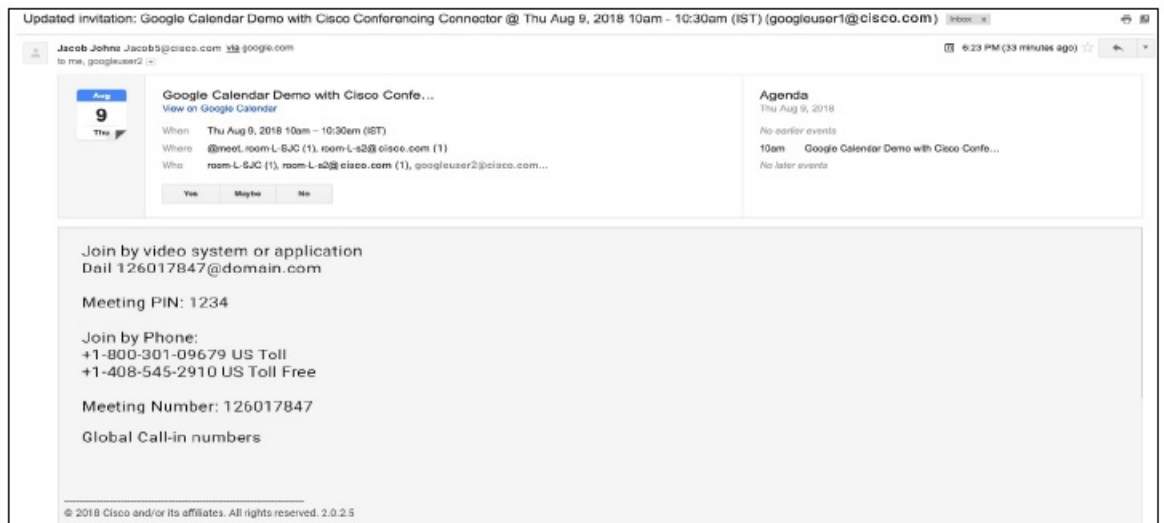
- a) Web ブラウザで、ハイブリッドカレンダーが有効になっている Google カレンダー ユーザーアカウントを使用して <https://calendar.google.com> にサインインします。
- b) 今日の日付をダブルクリックして、テスト会議をスケジュールします。
- c) [タイトルの追加 (Add title)] が表示されたテキストボックスにイベントタイトルを入力します。
- d) [ロケーションの追加 (Add location)] が表示されたテキストボックスに **@meet** を入力します。

(注) このフィールドには、1つのキーワードのみを入力します。キーワードのグループ化 (**@meet @webex** など) はサポートされていません。

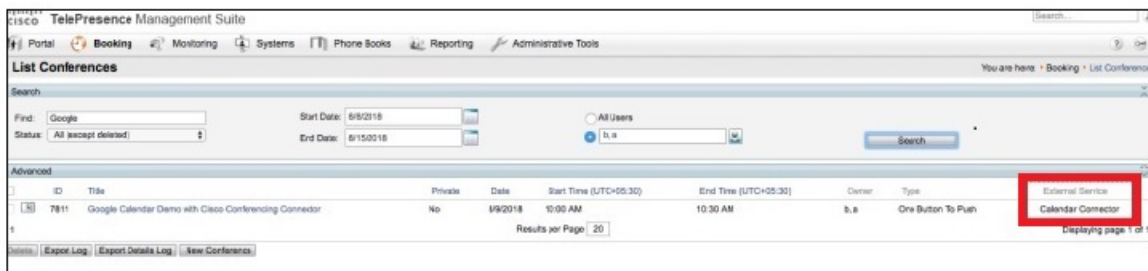


- e) [ゲスト (Guests) ]タブで、ユーザを招待し、OBTP用のルーム（またはその他のビデオデバイス）を追加します。
- f) 招待を送信します。

ハイブリッドカレンダーが参加の詳細に合わせて会議を更新します。



ステップ2 Webブラウザで、TMSにサインインして、[予約 (Booking) ]>[会議の一覧 (List Conferences) ]に移動します。



@meetを使用してスケジュールされたテスト会議とその他の会議が、[外部サービス（External Service）]列に[カレンダーコネクタ（Calendar Connector）]と示されてTMSに表示されます。

（注） TMS では、カレンダーコネクタの会議を編集することはできません。

## TMS と Google カレンダーの統合の注意すべき動作

このセクションでは、TMS と Google カレンダーの統合に関する制限事項と注意すべき動作を示します。

現在未解決の問題については、「[ハイブリッドカレンダーの既知の問題](#)」の「Google カレンダー（クラウドベース サービス）」セクションの「TMS と Google カレンダーの統合」リストを参照してください。

- シリーズのアクティブなインスタンス中に会議シリーズを編集すると、次の動作が実行されます。
  - TMS が進行中のインスタンス以外のすべてのインスタンスを更新します。
  - 現在アクティブなインスタンスが TMS 内で例外になります。

これは想定された動作ですが、アクティブなインスタンスも更新される Google カレンダーの動作とは異なります。

## TMS 統合のトラブルシューティング

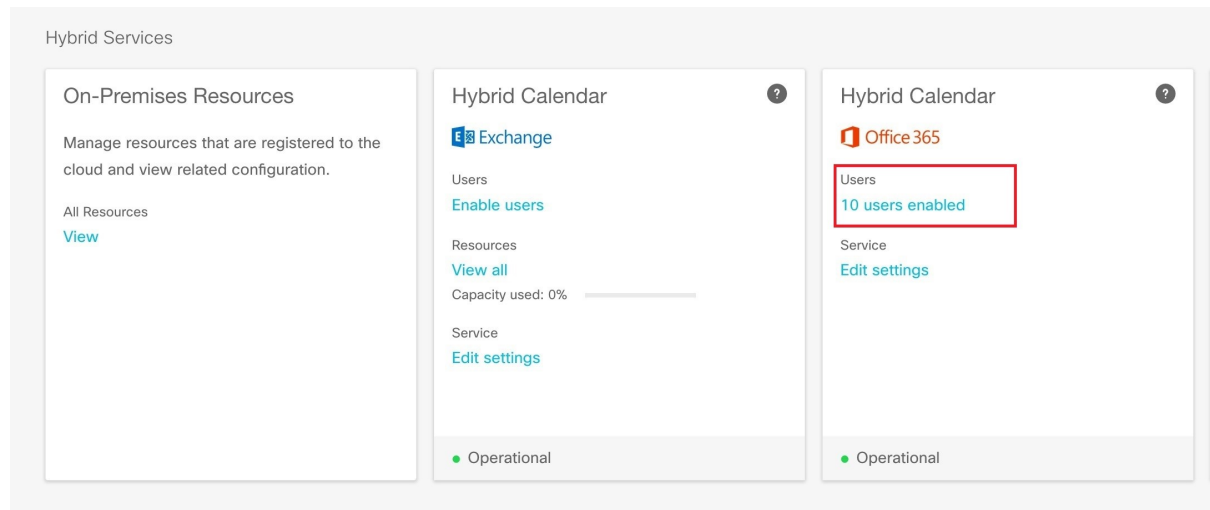
次のヒントを使用して、TMS とハイブリッドカレンダーの統合のさまざまなコンポーネントのステータスを確認します。

### 手順

ステップ 1 <https://admin.webex.com/login> の顧客ビューにサインインします。

**ステップ 2** 左側のナビゲーションウィンドウで、[サービス (Services)] の下の [ハイブリッド (Hybrid)] をクリックします。

**ステップ 3** ハイブリッドカレンダーに対して有効にされたユーザーの数を確認します。



**ステップ 4** Control Hub でコネクタのステータスを確認します。

- 左側のナビゲーションウィンドウで、[サービス (Services)] の下の [ハイブリッド (Hybrid)] をクリックし、オンプレミスのリソースカードから [すべてのリソース (All Resources)] をクリックします。
- TMS 統合用のリソースカードから、リソースの FQDN または IP アドレスの下にある [ノード (Node)] リンクをクリックします。

< demo-expressway.domain.com Nodes Settings

Connectors	Status	Version	Actions
ccg-qa-exp-c1.tmsxe0365.com		Platform Version: X8.11.1Alpha1 Serial: 07656963	
Management	● Running	8.10-1.0.321348	
Calendar	● Running	8.10-1.0.5263	

**ステップ 5** 上記のステータスと、Expressway コネクタホスト上のコネクタのステータスを比較します。

Expressway で、[アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス (Hybrid Services)] > [コネクタ管理 (Connector Management)] に移動します。



**Connector Management**

**Hybrid Services**

This Expressway cluster is registered with the Cisco Collaboration Cloud.

[Cisco Collaboration Cloud certificate management](#) - you are currently allowing Cisco Collaboration Cloud to add required CA certificates to the Expressway trust list

<https://admin.webex.com> - view the status of your clusters and connectors

**Connector management**

Click a connector name below to view or modify the connector details.

Service	Status	Version	Active	Configuration
<a href="#">Management Connector</a>	Running	8.10-1.0.321348	Enabled	
<a href="#">Calendar Connector</a>	Running	8.10-1.0.5263	Enabled	<a href="#">Configure Microsoft Exchange Servers</a>   <a href="#">Configure Cisco Conferencing Services</a>

## カレンダーコネクタログの有効化と収集

### 手順

- ステップ 1 Web ブラウザで、**https://<Expressway コネクタのホスト名または IP アドレス>/setaccess** にアクセスします。
- ステップ 2 [アクセスパスワード (Access password) ] フィールドに、**qwertsys** と入力します。
- ステップ 3 [アクセスの有効化 (Enable access) ] をクリックします。  
既存のメニュー項目の右側に、新しい [実験用 (Experimental) ] という最上位メニューが表示されます。
- ステップ 4 [実験用 (Experimental) ] > [ハイブリッドサービスログ (Hybrid Services Log) ] > [ハイブリッドサービスログレベル (Hybrid Services Log Levels) ] に移動します。
- ステップ 5 [hybridservices.c\_cal] を選択して、[デバッグに設定 (Set to debug) ] をクリックします。
- ステップ 6 ログを収集するには、[実験用 (Experimental) ] > [ハイブリッドサービスログ (Hybrid Services Log) ] > [ハイブリッドサービスログレベル (Hybrid Services Log Levels) ] に移動します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。